

夜間学級、「母校」堂々宣言

城南中正門に校名表札

戦中戦後の混乱と貧困で学校に通えなかった人や、在日コリアンが通う北九州市小倉南区の城南中学校夜間学級の校名表札が、学級が開かれている中学校正門に掲げられた。市が設置する学校ではないが、制作・設置費用は市がまかかった。「学びたい」という望みにこたえようと、ボランティアによって開学されて12年。生徒たちは「私たちの学校の証しができた」と喜んでいる。(山下知子)



できあがった表札の前に集まった生徒と先生たち＝北九州市小倉南区富士見3丁目

「学ぶ勇気 後押ししてくれる」

表札はアルミ複合板製で、縦35センチ横60センチの大きさ。「城南中学校『夜間学級』」の文字に、ふりがなも振ってある。

設置されたのは先月末。生徒らは真新しい表札に触れながら、「うれしいね」「ちょっと字が小さいかしら。車で通った人に見えるかな」などと話し、記念写真に納まった。夜間学級事務局の林静一路さん(76)は「夜間学級の生徒には母校がありません。表札設置は、ここが学舎であり母校なんだという宣言なんです」と話す。

市内に住む生徒の男性(70)は「表札があるとなんか大違ひ。勉強したい人が堂々と入れる」と喜ぶ。

実家は農家で貧しかった。一家の働き手として小学校は休みがちだった。中学校には行かず、製鉄所や建設現場などを転々とした。

字が読めないことで味わったつらい経験は数しれない。「この字読めるか」とからか

われた時は聞こえなかったふりをした。「今思えば『叶』という字だったなあ」

7年ほど前、区役所で夜間学級の存在を教えてもらったが、通い始めたのは3カ月後だったという。「文字が読めないことを知られるのが怖かった。悩んで悩んで……。最初の一步は本当に勇気がいる。学級の表札は、通おうか迷っている人の背中を押してくれるはずだ」

同学級は、よみかき教室・城野として1998年に始まった。当初は公民館で、02年から中学校の教室で開かれている。元教員らがボランティアで運営し、05年度からは市が補助金を出している。現在約25人が通学し、美術や音楽も含めた9教科を学んでいる。

00年の国勢調査によると、15歳以上で小・中学校を卒業していない「未就学者」は、全国で15万8891人、市内に1595人いる。